

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地球環境政策学	
科目基礎情報							
科目番号	1032			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	総合システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材							
担当教員	四蔵 茂雄						
到達目標							
1. 地球レベルの環境問題について、発生メカニズムと現状を理解し説明できる。 2. 環境問題の発生を経済学的観点から説明できる。 3. 環境政策の枠組みを理解し説明できる。 4. 温暖化防止政策を理解し説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	地球レベルの環境問題について、発生メカニズムと現状を十分に理解し説明できる。			地球レベルの環境問題について、発生メカニズムと現状を理解し説明できる。		地球レベルの環境問題について、発生メカニズムと現状を理解しておらず説明もできない。	
評価項目2	環境問題の発生を経済学的観点から十分に説明できる。			環境問題の発生を経済学的観点から説明できる。		環境問題の発生を経済学的観点から説明できない。	
評価項目3	環境政策の枠組みを十分に理解し説明できる			環境政策の枠組みを理解し説明できる		環境政策の枠組みを理解できず説明もできない。	
評価項目4	温暖化防止政策を十分に理解し説明できる。			温暖化防止政策を理解し説明できる。		温暖化防止政策を理解できず説明もできない。	
学科の到達目標項目との関係							
(F)							
教育方法等							
概要	この授業では、今日地球規模で生じている環境問題について講義する。また、これらの環境問題に対してとられる対策について述べる。特に、温暖化防止対策として試みられている排出権取引やCDM等の経済的手法に重点をおいて解説する。また、その背景となる経済理論に対する理解を深めてもらう。さらにLCAや環境経済評価についても触れる。演習課題では、青葉山のオオキンレイカや尾瀬沼湿原、屋久杉等の貴重な自然や生態系の経済価値を計測する。						
授業の進め方・方法	講義を中心に進める。講義は基本的に板書で行う。適宜スライドも併用する。学習内容の理解を深めるため、演習問題/課題をやってもらう。 1)予習と復習を行う事。 2)授業中は講義ノートをきちんととり理解すること。 3)わからない事は質問すること。 4)課題のレポートは期限内に提出すること。						
注意点	定期試験を実施する。試験時間は50分とする。成績は、定期試験の成績70%、レポート課題の成果30%で総合評価する。なお、全ての課題のレポートが提出されない場合、総合評価は59点以下とする。 電話：8986 メール：shikura@maizuru-ct.ac.jp						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	シラバス内容の説明、環境政策概論				
		2週	地球環境問題(1) 環境問題の連関、人口問題と経済発展				
		3週	地球環境問題 途上国の環境問題				
		4週	地球環境問題 現状把握と評価				
		5週	地球環境問題 温暖化とそのメカニズム				
		6週	環境政策概論 環境管理手法の種類と特徴				
		7週	経済的手法(1) 価値と効用、社会的余剰				
		8週	経済的手法 外部不経済				
	2ndQ	9週	経済的手法 環境税、コースの定理、				
		10週	経済的手法 デポジット制度、				
		11週	経済的手法 排出権取引と京都議定書、				
		12週	その他の手法 ライフサイクルアセスメント (LCA)				
		13週	その他の手法 環境の経済評価1				
		14週	その他の手法 環境の経済評価2				
		15週	経済評価演習				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0